

〔科目名〕 マネジメント論Ⅱ(経営管理の応用)	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 基幹科目(選択必修科目)
〔担当者〕 上田 弘 (Hiromu Ueda)	〔オフィス・アワー〕 時間:授業日の12:00~12:30 場所:604 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>現代の企業運営の実務は、「マネジメントに始まってマネジメントに終わる」という言葉があるように、経済社会を運営する主体は企業と個人であるが、その組織の代表格は企業である。P・F・ドラッカーは、「マネジメントは組織のための機能である。組織がなければマネジメントはありえない」と言っている。要するに「健全な組織の運営なくして、企業はありえない」のである。</p> <p>現代では、企業の経営者、管理者、個々の社員レベルにおいても、経営管理に関する能力を発揮することが求められる。実際に企業運営をマネジメントしていくうえでは、マーケティング面に関する内容、人事面に関する内容、財務面などに関する内容まで多岐にわたっている。</p> <p>そこで本授業では、「マネジメント論(経営管理論)」の入門編として、経営学の源流から既存の経営管理論の歴史的変遷、現代企業における経営管理の実務などの理解に重点を置いて経営管理論の全体像について概観していく。そのうえで、企業がグローバル経済の中で、激しく変化する経営環境に対応していくにあたり、必要なビジネス理論、企業内における管理方法、わが国の固有な経営手法の特徴などを考察する。</p> <p>また、本授業の進め方として、ビジネス現場におけるマネジメントのあり方について、実際の企業実務事例にも触れながら、社会人になっても実務で活用できる経営管理の基礎的な知識の習得を目指すこととする。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>経営学は身近な学問と言われているが、経営学の内容には、経営戦略、経営組織、機能別戦略としてマーケティング、人事労務管理、財務管理などといった項目がある。要するに、経営学には現実の仕事、組織、人に関係する要素が沢山あり、経営者でなくとも、社会人になっても必ず役に立つ身近な学問であると認識してほしい。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>マネジメント論Ⅱの授業では、マネジメント論Ⅰの内容を発展させ、企業運営における経営管理の位置づけと役割、経営学における経営戦略、マーケティングなどの項目のフレームワークに対する興味と理解を深め、実際の企業経営の現場で活用されている知識を付与したいと思う。</p> <p>本授業を通じて、将来の就職活動、インターンシップの場面のほか、社会人になっても実務で役立つマネジメントの要点を学び、理解することを目標にする。なお、本授業では3回の連続授業を実施します。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>この科目を担当するにあたって、私がこれまで中小企業及び役所等において実質経営者、管理者として勤務した実務経験から得た知見、多くの大企業、ベンチャー企業、中小企業をフィールドワーク及び海外調査で訪ねた企業事例などを通じて、企業現場や経営実務に関するマネジメント知識と有効な実践的スキルなども付与したいと思う。</p> <p>また本授業を通じて、履修者からの要望、改善・工夫に関して意見やアンケート内容を授業に取り込む工夫も積極的に行っていきたい。</p>		
〔教科書〕 高柳 暁、牛丸 元、金森 剛ほか共著『新版経営学』実教出版		
〔指定図書〕		
〔参考書〕 塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男著『経営管理』有斐閣アルマ 野中郁次郎著『経営管理』日経文庫、奥村昭博著『経営戦略』日経文庫		
〔前提科目〕 なし		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>◎評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期開始後、中間時に「課題レポートの提出」を課し、提出されたレポートは最大 50 点評価とします。 2. 学期末に「定期試験」を行い、最大 50 点評価とします(試験では講義ノート、レジメ、教科書は持ち込み可。) <p>上記 2 つの要素で最終評価に反映させます。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>◎評価の基準</p> <p>授業で得た知識を基に、現代の企業で実際に行われているマネジメント(経営管理)内容の理解力で評価します。</p> <p>A:80 点以上 B:80 点未満 70 点以上 C:70 点未満 60 点以上 D:60 点未満 50 点以上 F:50 点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講を希望する者は、必ず 1 回目の授業に出席するものとします。 ・授業は、出来るだけ分かりやすい授業を行い、一方的に話すだけではなく、教科書及びレジメ等の輪読、学生に意見を求め、ディスカッションを行うこともあります。そのため、受講する学生は、授業への参加意欲を持って出席してほしい。 ・PCや iPad などは、ノートをとる必要及び事例企業などを検索する場合などに限り、その使用を認めます。 	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>経済産業省(旧通産省)、中小企業等での実務経験を活かし、企業における経営管理に関する包括的な知識を身に着けるため、実際の企業事例にも触れながら、企業マネジメントの基礎的な知識の習得を目指す授業です。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション、経営学説の振り返り</p> <p>内 容: (1)経営学説の変遷、(2)伝統的管理論、(3)人間関係論、(4)行動科学的管理論、(5)近代管理論、(6)コンティンジェンシー理論等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか):マネジメントの基本</p> <p>内 容: (1)マネジメントとは何か、(2)マネージャーの仕事と資質、(3)マネジメントとリーダーシップ</p> <p>教科書と配布資料</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代の企業経営 1</p> <p>内 容: (1)企業形態(合名会社、合資会社、株式会社、合同会社、その他の会社形態)、(2)株式会社制度(取締役会、株主総会等)、(3)独占とM&A、所有と経営の分離、(4)日本的経営(日本的経営の系譜、日本企業の行動上の特徴)、(5)コーポレート・ガバナンス 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略1(経営戦略の重要性)</p> <p>内 容: (1)経営戦略の概念、(2)経営戦略論の系譜(1960 年代～現代)、(3)経営戦略の重要性と体系、(4)戦略計画の立案(経営計画、マネジメントサイクル 等)</p> <p>教科書と配布資料</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略2(経営環境の分析)</p> <p>内 容: (1)経営戦略の策定プロセス、(2)経営環境の分析(SWOT 分析、3C分析)、(3)外部環境の分析、(4)自社能力の分析 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略3(全社戦略)</p> <p>内 容: (1)ミッション・経営理念・ビジョン、(2)企業ドメイン、(3)企業成長の方向性(製品-市場マトリクス、多角化、シナジー)、(4)全社戦略の方法(M&A 戦略、アウトソーシング、グローバル戦略)、(5)経営資源の配分(PPM) 等</p> <p>教科書と配布資料</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営戦略4(事業戦略)</p> <p>内 容:(1)事業戦略と競争戦略、(2)ポーターの競争戦略論、(3)競争地位別の戦略、(4)戦略グループと移動障壁 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):機能別戦略1(マーケティング戦略1)</p> <p>内 容:(1)マーケティングの考え方(コンセプト、4P、マーケティング・ミックス、MD)、(2)マーケティング戦略、(3)消費者行動、(4)市場のつかみ方、(5)製品の管理方法、(6)価格戦略 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):機能別戦略2(マーケティング戦略2)</p> <p>内 容:(7)商品分類と販売チャネル、チェーン形態、(8)コミュニケーション戦略、(9)営業管理 等</p> <p>教科書・指定図書と配布資料</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):機能別戦略3(人事労務管理)</p> <p>内 容:(1)人事・労務管理の対象、(2)職務拡大と職務充実、(3)ジョブ・ローテーション、(4)OJTとOff-JT (5)職務給と職能給、(6)目標管理制度、成果主義、(7)従業員持株制度とストックオプション 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):機能別戦略4(財務管理)</p> <p>内 容:(1)財務管理の意義、(2)財務管理の目的、(3)資本調達の源泉の分類と資本コスト、(4)投資決定の方法、(5)財務レバレッジ、(6)MM理論、(7)損益分岐点分析 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):マネジメント・スキル</p> <p>内 容:(1)マネジメント・スキル、(2)クリティカル・シンキング(論理的思考法等)、(3)問題解決法、(4)コミュニケーション・スキル 等</p> <p>教科書・指定図書と配布資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代の企業経営 2(企業の内部統制)</p> <p>内 容:(1)内部統制の定義と目的、(2)コンプライアンス経営と内部統制、(3)CSR(企業の社会的責任)(4)会社法で求められる内部統制、(5)金融商品取引法で求められる内部統制 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代の企業経営 3(企業の国際化、SDGsと環境経営)</p> <p>内 容:(1)イノベーション・マネジメント、(2)国際化とグローバル経営(海外投資、多国籍企業)、(3)SDGs(持続可能な開発目標)とESG(環境、社会、ガバナンス) 等</p> <p>教科書と配布資料</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめと復習</p> <p>内 容:これまでの授業の中から話題の企業のマネジメント事例を考察する。 企業の今日的課題(情報化、ネットワーク、ブロックチェーン 等)</p> <p>教科書と配布資料</p>
試験	筆記試験の実施